

## 日蓮聖人とは

日蓮聖人（1222-1282）は、日蓮宗の開祖です。12歳で千葉県清澄寺で修行を始め、16歳で出家して僧侶となりました。16歳で僧侶として出家した日蓮は、仏教界の既成概念を覆すような新しい教えを展開しました。最初は拒否されましたが、彼の教えは今日の日本の仏教の支配的な伝統の一つを形成しています。身延山久遠寺の建物や記念碑の多くは、日蓮と彼の教えに捧げられています。

## 幼少期の生活と教え

日蓮聖人は、日本の主要な仏教の流派をすべて研究した上で、歴史上のお釈迦様から伝わった法華経が唯一の真の教義であることを宣言しました。1253年、日蓮聖人は「南無妙法蓮華経」(法華経に帰依する)という真言を発表し、日蓮の普遍的な救済の教えの中心となりました。

日蓮宗は現在の日本では最大級の宗派ですが、日蓮の教えは生前には広く受け入れられていませんでした。1253年、日蓮は当時の政庁所在地であった鎌倉で法華経を説き始めました。

鎌倉時代には、地震や干ばつなどの自然災害、飢饉、疫病の発生、モンゴルの侵略の脅威などがありました。日蓮は、これらの苦難を国民の誤った信仰の直接の原因と考え、1260年に『立正安国論』を著しました。

この中で日蓮は、当時最も人気のあった浄土真宗や真言宗の誤った信仰を否定してこそ、国は災難を乗り越えることができると述べています。また、政府の援助は何の成果も生まなかったと書いています。彼は、多くの僧侶が人々を誤解させており、政府はそれに気づかないほど無知であったとまで主張しました。鎌倉の事実上の将軍である北条時頼（1227-1263）のもとにその書物が送られ、その言葉は街頭で説かれた。1260年8月、鎌倉の日蓮の自宅で浄土宗の信者たちが日蓮を襲いました。日蓮は逃亡し、1261年春まで弟子の富木常忍の家に身を寄せました。

## 亡命と帰還

同年、鎌倉に戻った日蓮は、幕府から伊豆半島への流刑を言い渡されましたが、日蓮の罪状について正式な調査は行われませんでした。幸いなことに、日蓮は伊豆の親切な漁師、船守弥三郎に引き取られました。2年間の伊豆での流罪生活の後、将軍は恩赦を与えてくれました。日蓮が鎌倉に戻ってきたのは、1263年2月のことでした。

1264年、日蓮の未亡人の母が病気になるしました。日蓮は、母の世話をし、回復を祈りました。政府は恩赦を出していたが、日蓮は浄土真宗、真言宗、禅宗の支持者からは敵視されていました。日蓮帰国の知らせが安房東条村の東条景信に届くと、東条景信は日蓮を殺そうと画策しました。

東条村松原付近で日蓮を待ち伏せした景信たち。日蓮は一命を取り留めたものの、手の骨を折られ、頭に刀傷を負いました。日蓮は手を骨折し、頭に刀傷を負いましたが、日蓮の部下 2 名が戦死しました。この事件は小松原事件と呼ばれています。

1268 年、モンゴル帝国が日本を侵略しようとしていました。日蓮は以前の書物でこれを予言していたので、日本の高官 11 人に再度警告文を送ることにしたが、彼の手紙は無視されてしまいました。

## 二度目の追放と身延山への移動

その後、1271 年、日本は大干ばつに見舞われました。幕府は極楽寺の住職である旅籠に雨乞いを命じました。日蓮は旅籠に「雨を降らせることができれば、日蓮を弟子にしてくれ」と言いました。雨が降らなければ日蓮の弟子になる。旅館はそれを受け入れ、努力しても雨は降らなかったが、日蓮の弟子になることを拒み、日蓮に陰謀を企てました。1271 年、日蓮は再び日本海の離島である佐渡に流罪を言い渡されました。

1272 年、日蓮は佐渡で地元の僧侶から宗教論争（後の塚原論争）を挑まれ、反対派の教義に反論することができました。勝利後、佐渡での生活は好転。信者を増やし、衣食住の寄付を受けるようになりました。

1274 年、北条時宗（将軍執権）が日蓮の流罪を終わらせ、その年の 3 月に鎌倉に戻ってきました。その後間もなく、日蓮は武官の前に呼び出され、蒙古襲来の可能性について質問されました。日蓮は「年内に攻撃が迫っていると考えている」と述べました。日蓮は、真言宗に祈りを求めることは事態を悪化させるだけだと考え、政府に警告を発しました。5 月 12 日、彼は鎌倉を離れ、富士山の西、現在の山梨県の身延山の近くに定住しました。この地に建立した久遠寺は、やがて日蓮宗の総本山となりました。